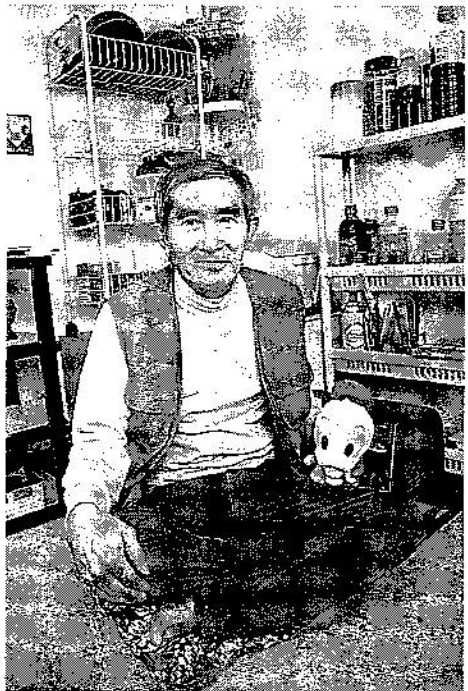


生活保護で取り戻す人生

申請支援に弁護士ら奔走



●自宅アパートでくつろぐ渡辺徹さん。野宿生活の孤独をいやしたぬいぐるみを、今も部屋に持っている一埼玉県川口市で●渡辺さんが昨年まで野宿をしていた橋の下＝同県で(猪股正弁護士提供)

生活保護で人生を取り戻そう。失業や病気で追い詰められているのに自治体が生活保護申請を受けつけない、「水際作戦」とも呼ばれる窓口での規制が問題となるなか、一部の法律家が申請に同行するなどの援助活動に乗り出した。ホームレス、多重債務などの苦境を乗り越えようとする人たち、支える弁護士たち。実情を重ねる埼玉真で取り組みを見た。

(清川卓史)

ホームレス 面接に同行・戸籍探す 多重債務者

「住所もない人間が生活保護を受けられるなんて、最初は信じなかった」。埼玉県川口市。風通しのよい1Kのアパートで、渡辺徹さん(64)は語った。壁にはビル清掃の仕事の勤務表がはってある。

20代で青森県から上京、プラスチック加工会社で働いた。01年に会社が倒産、社員寮を出た。その後は安定した職につけず、10年以上も野宿生活を続けた。昨年9月にアパートに入居するまでの2年半、橋の下で寝起きした。空き缶集めの収入と、コンビニエンスストアが陸奥した弁当な

どで命をつないだ。「寒さや空腹で眠れないのが一番つらかった」と振り返る。猪股正弁護士に出会ったのは昨年7月、県のホームレス相談会だった。猪股さんはホームレス支援のNPOと協力してアパート探しに奔走。生活保護申請の面接にも同行した。保護は受給できたが、住民票が抹消されて本籍がどこにあるのかわからなかった。「年金記録の照会もできなかった」。一緒に故郷の住居地図を見たり、卒業した小中学校に名簿を調べてもらったりして、戸籍を見つけ出した。

「拒否は違法」法的措置も

行政による違法な申請拒否や生活保護の打ち切りがあったとして、法的対応に踏み切った例もある。先月16日、さいたま地裁の裁判官と弁護士ら約10人が三郷市福祉課を訪れた。同市で生活保護を受け、た家族の申し立てを受け、面談や生活指導記録の証拠保全手続きを取ったのだ。代理人の吉広慶子弁護士(48)は白血病で職を失って入院。母親(88)も夫が倒れた衝撃などで精神科で治療を受け、長男の月収約10万円では医療費も含めた家計は支えられなかった。

労働場で申請を拒否した」と批判。市は「現時点で『コメントできない』としている。家族は近く、本来受けられるはずだった保護費と慰謝料の支払いを市に求める訴訟を起す。

近く対策会議の集会

埼玉県の弁護士が「反貧困」活動を始めたきっかけは、「ヤミ金融被害対策埼玉弁護士団」が昨年1月に開いた生活保護の勉強会。ヤミ金融被害者を救済しても、生活費で再びヤミ金に手を出すような状況を変えたい。その後、お金のない人の負担を減らす制度を活用するなどして、保護申請の支援を続けてきた。

今年4月には、埼玉と東京の弁護士や司法書士を中心に「首都圏生活保護支援法律家ネットワーク」が発足。相談用の電話(048・86665040)も開設した。6月3日には法律家

同ネットの共同代表でもある猪股弁護士は「病氣や失業、高齢などで誰もが貧困に陥る可能性があるが、命を支えるはずの窓口で違法な対応が横行している。法律家が援助する意味は大きく」と語る。